

パンダハウスを育てる会の
活動に参加しませんか。



病気をもちながら地域で暮らす
子どもと家族を支えるために。



PANDAHOUSE

難病の子どもと家族を支える
パンダハウスを育てる会



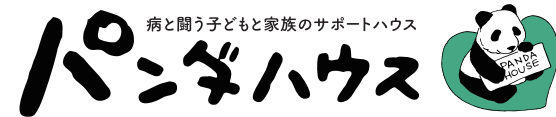
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



すべての人々の健康
的な生活を確保し、福祉を促進
する



市民社会のパート
ナーシップを推
進し課題解決に
取り組む



認定特定非営利活動法人(NPO)

パンダハウスを育てる会

〒960-8157 福島県福島市蓬萊町8丁目15番地1

TEL&FAX 024-548-3711(電話受付 10:00~15:00)

<http://pandahouse.org/>

Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

このパンフレットは、日本財団からの助成金で作成しました

あなたのまちにも、 病気をもちながら暮らす 子ども達があります。

小児がんや心臓の病気などで闘病する子ども達は、
全国で14万人以上と言われます。

特別な治療が必要な子ども達は、住み慣れた家やまちを離れ、遠距離の通院や長期入院に耐えています。家族は、病室などに泊まり込んで入院生活を支え、治療に関わる意志決定や経済的負担を担います。

退院して地元に戻ってからも、継続的な医療ケアや生活への配慮が必要な子どもは少なくありません。また、成長に伴い、学校や地域の人々に理解・配慮を求める働きかけや、制度・施設についての情報収集が、その都度必要になります。中には、治療中心の暮らしで、孤立していると感じる家族もいます。

どの子どもも、家族も、私たちと同じ普通の生活者です。仕事をもちながら長期の治療・介護をこなし、生活の環境を整えていく責任と負担はあまりにも重い。

一方で、子どもの地域包括ケアシステムはまだ発展の途中です。だからこそ彼らの相談に乗り、サポートをする組織が必要とされています。

病気を抱えた子どもと家族は 様々な悩み・不安を抱えています。

入院中

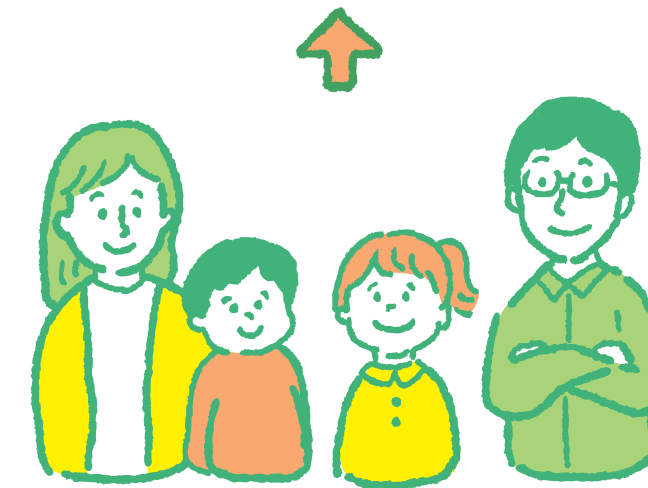


本人

- 長期の入院で勉強が遅れている
- きょうだいも面会に来て、病院では遊べない

ご家族

- 治療の内容が難しく判断に困る
- 経済的な負担が重い
- 家に残ったきょうだいのケアができない
- 仕事と育児・介護の両立が難しい
- 家族が滞在できる施設がほしい



卒業後

- もうすぐ入園・入学だけど不安だな
- 病気で疲れやすいのに就職できるだろうか
- 治療は続いているけれど、出産・授乳はできるのか

ご家族

- 利用できる福祉制度が知りたい
- 育児・介護の悩みを聞いてほしい



地元に戻ってから

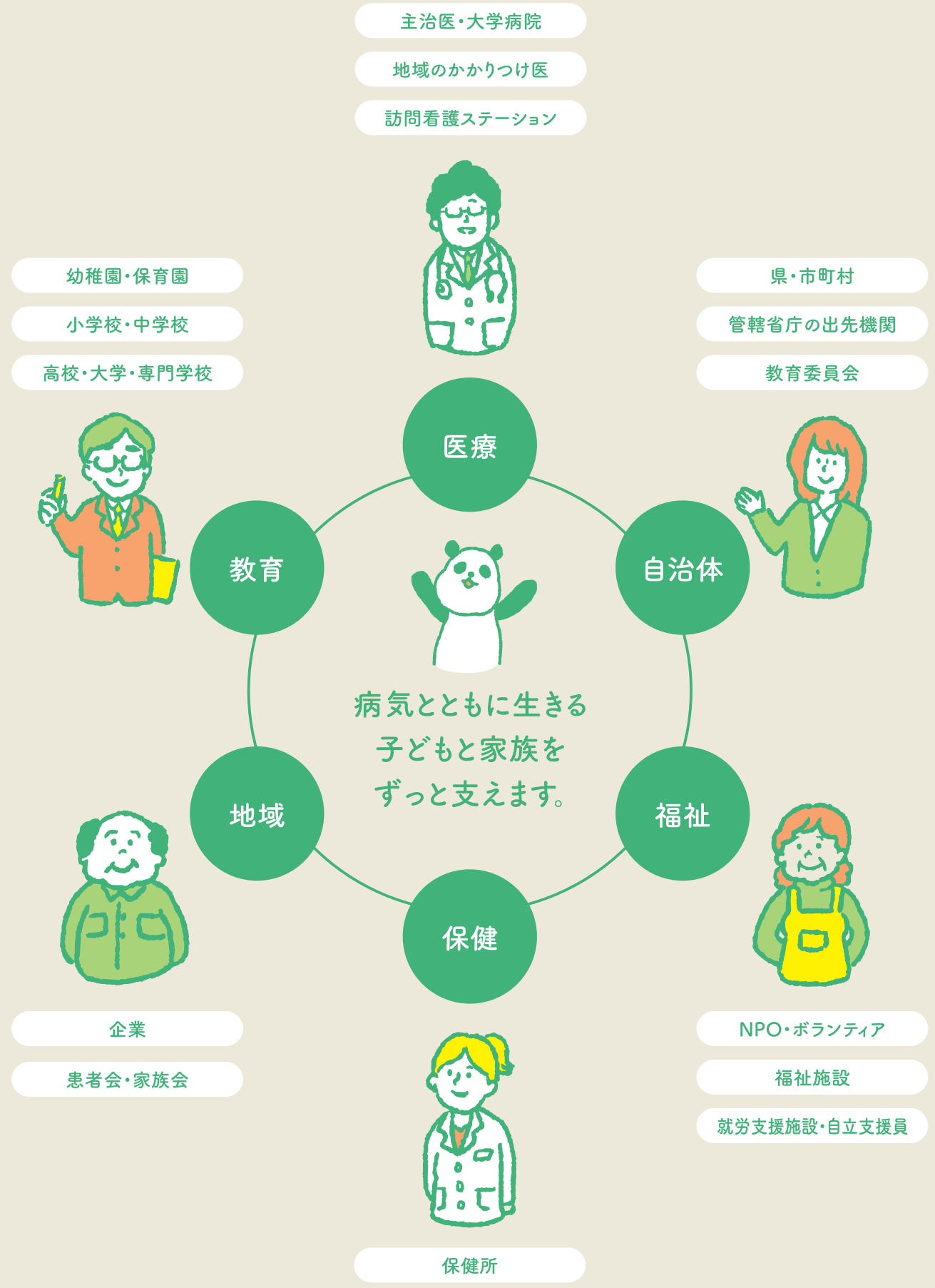
パンダハウスを育てる会は、 子どもと家族を、ずっと支える会。

病気とともに
生きる子どもと家族を
支えるNPO法人です。

「パンダハウスを育てる会」は、およそ20年前、全国に先駆けて、病院の近くの宿泊施設「パンダハウス」を建設。以来ずっと治療・入院中の子どもと家族を支えてきました。その運営を通して培ったネットワークとノウハウを活かして、ご家族の不安や悩みの解決・軽減を目指しています。

切れ目のない
サポートをするための、
地域連携ハブ拠点。

「パンダハウスを育てる会」は、子どもと家族が地元に戻ってからも継続的に見守り、様々な相談を受けています。子ども達が地域で安心して成長できるよう、地域連携のハブ拠点として様々な分野と連携をとり社会資源を活用しながら、ライフステージに寄り添った切れ目のないサポートを行っています。



ひとりのお母さんの想いから生まれ、



1994年に 活動をスタート

パンダハウスを育てる会は、難病の子どもを持つひとりのお母さんの声から生まれました。わが子の治療中に、病室に泊まり込んで子どもの世話をしている仲間の苦労を実感し、何とか助けたいと周囲に相談したのがきっかけでした。賛同したメンバーが協力者を募り、3年かけて3000万円の資金を集めて、専用の宿泊施設を建設。皆様のご寄付で新たに建設されたものとしては国内第1号の施設となりました。

パンダのように 愛される存在に

1997年10月、病と闘う子どもと家族のためのサポートハウス『パンダハウス』がオープン。名前の由来は、大きなパンダのぬいぐるみでした。ある男の子のお見舞いに贈られたぬいぐるみを小児病棟のみんなが可愛がっているのを見て、「あのパンダのようにみんなを励まし、愛される存在に」との想いを込めて名付けられました。大きなパンダは、20年経った今もパンダハウスで来る人を迎え、子ども達を温かく見守っています。

20年以上活動を続けています。



ボランティアと寄付に 支えられて20年

パンダハウスの運営を支えているのは、ボランティアの方々です。毎日、お掃除や消耗品の補充のために通ってくれています。また、ハウスで使う家具・消耗品や運営費用は、ほとんどが寄付により賄われています。運営メンバーや賛助会員は、ドクターや看護師、地域企業の方々、学生さん達、そして地域住民のみな様です。利用者様の増加を受けて、2017年5月にはハウスを増築。多くの方からの寄付と日本財団の支援によって実現しました。

「相談室」を開き、 活動の幅を拡大

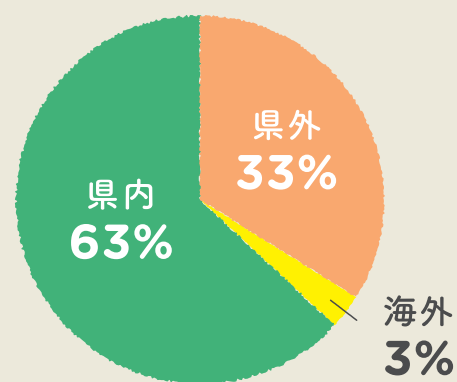
厚生省の方針の下、2015年から「小児慢性特定疾病児童等 自立支援事業」が実施され、地域による支援の充実が図られています。私たちも「パンダハウス相談室」を立ち上げ、その一翼を担うことを目指しています。例えば医療機関と連携を深め、病院内の窓口で相談を受ける活動を始めました。私たちが目標とするのは、病と生きる子どもとその家族が安心して生きられる社会をつくること。その実現には、もっと多くの仲間が必要です。

県内はもちろん、日本中の子どもが、 高度な治療を受けるためにこの町に来ています。

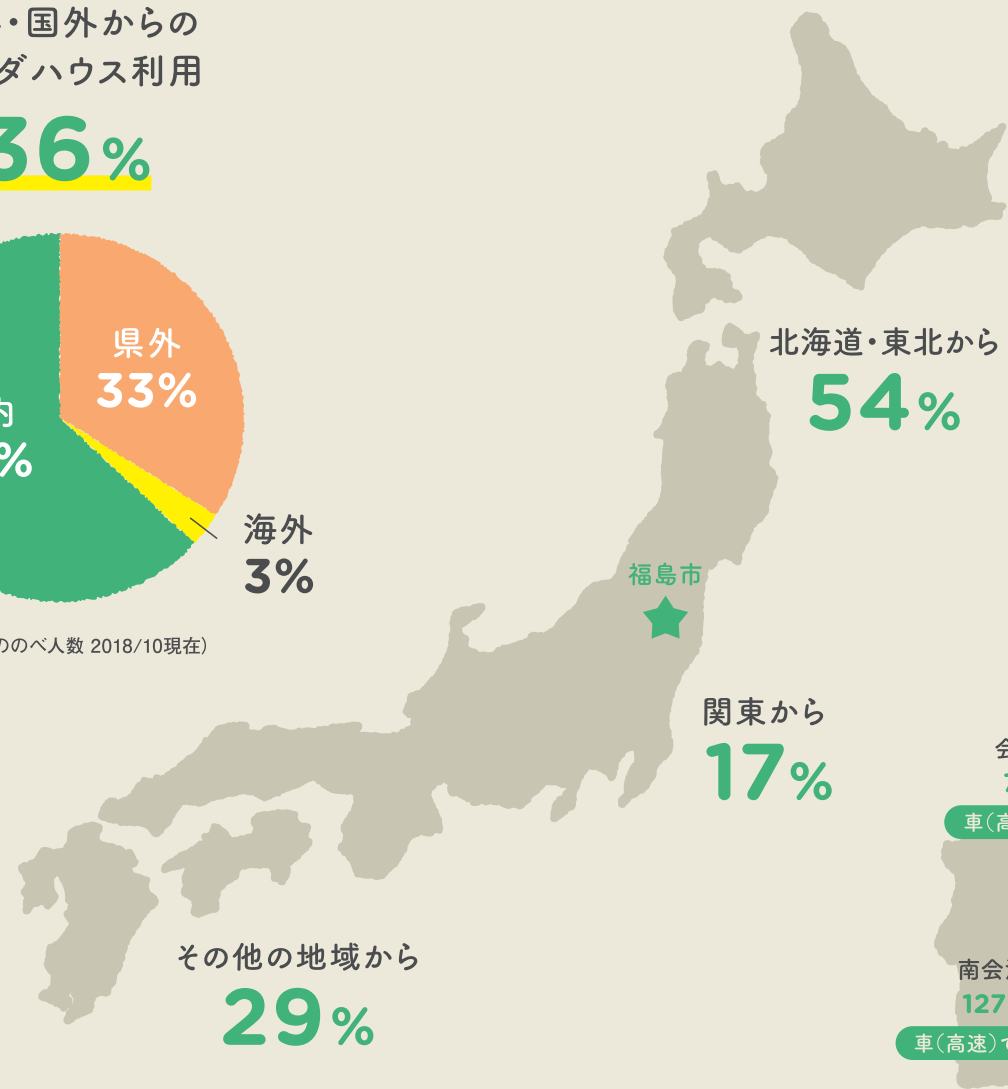
医療が進み、小児がんや心臓の病気も治療できるようになりました。
しかし、地元で受けられない高度な医療を必要とする子どもが沢山います。
ぜひ知ってください、パンダハウスの利用者がいかに多く、
どれだけ切実にサポートを必要としているかを。

県外・国外からの
パンダハウス利用

36%



(開設からのべ人数 2018/10現在)



南会津から
140km

福島県立医科
大学附属病院



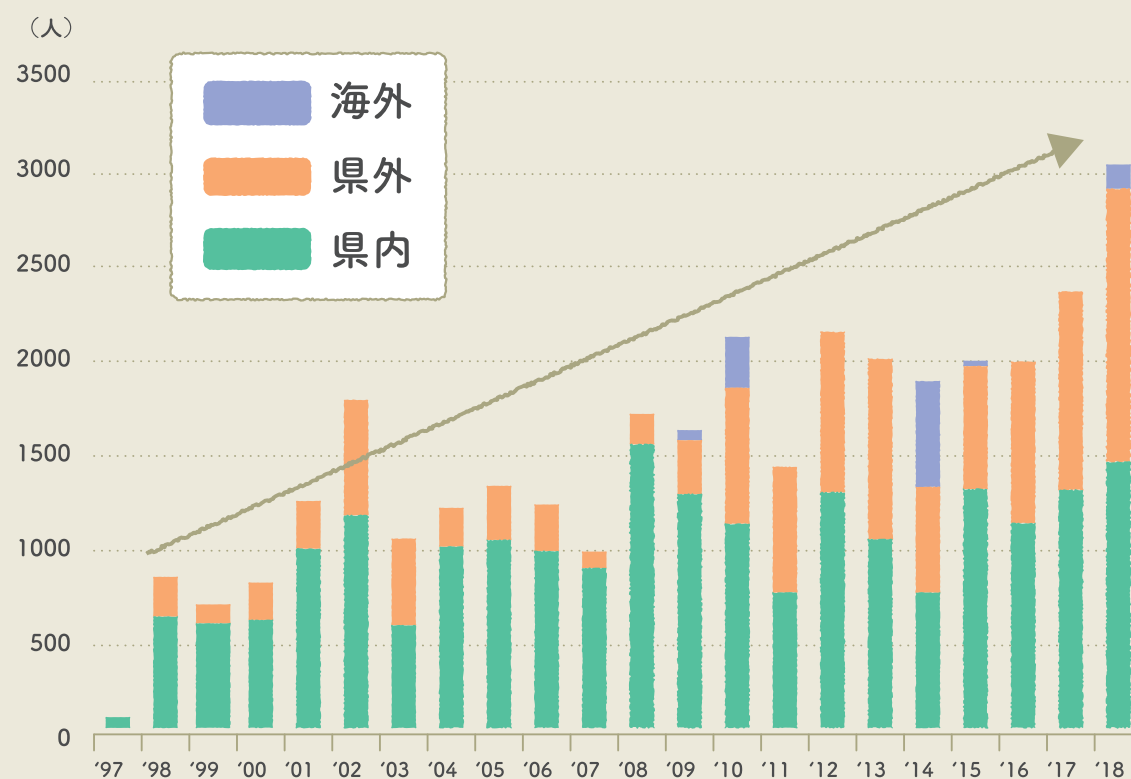
のべ利用人数
33,283人

平均稼働率
101%

(2018年度実績)

【年間のべ利用人数】

'98~'10は1/1~12/31の1年間、'11は1/1~9/30、'12以降は10/1~9/30の年度間で集計





私たちの活動に参加しませんか。

私たちの活動は、賛助会員の会費と皆様からの寄付金、ボランティアによって支えられています。活動に参加するには様々な方法があります。できることからお気軽にご参加ください。

宿泊施設運営ボランティア

宿泊施設「パンダハウス」の維持・運営などをお手伝いいただけるボランティアを募集しています。初めての方も歓迎！参加日程や頻度は相談により決めていきます。安心してご参加ください。

活動の一例

- ハウスのお掃除
- クリスマスプレゼント作り
- パンダバッジ作り
- バザー運営
- 庭の手入れ
- …など

まずは、電話かメールでご連絡ください。

賛助会員(企業・団体)

年会費 1口 10,000円

私たちの活動に賛同し、応援して下さる「企業」「団体」を募集しています。

- 1口からご参加いただけます。
- 年会費は、「パンダハウスを育てる会」の活動費や、「パンダハウス」の運営・維持・光熱費に充当します。

賛助会員(個人)

年会費 1口 3,000円

私たちの活動に賛同し、応援して下さる「個人」の賛助会員を募集しています。

- 1口からご参加いただけます。
- 年会費は、「パンダハウスを育てる会」の活動費や、「パンダハウス」の運営・維持・光熱費に充当します。

寄附(物品)

宿泊施設「パンダハウス」で使用する日用品・消耗品などの寄附を募っています。

必要な物品の例

- 石鹸・洗剤
- 浴用品
- 歯ブラシ
- 調理用品・食器など
- 掃除用品
- 衣類
- パンダバッジ作り
- クリスマスプレゼント作り…など

詳しくは事務局までお問い合わせください。

寄附(寄付金)

金額はいくらでも結構です。

郵送や銀行振込でも受け付けています。また、当団体は認定NPO法人です。下記の税制優遇が受けられます。

■個人の方のご寄付

一定限度内で寄付金額に応じた所得控除もしくは税額控除が受けられます。

■法人のご寄付

一定限度内で寄付金額に応じた損金算入(経費処理)が認められます。

募金箱設置

募金箱を設置していただける施設・店舗・学校などを募集しています。設置可能な方は、ぜひ事務局まで、電話またはメールでお申し出ください。